

伊万里 市議会だより

第25号

平成20年
(2008年) 4月



「ほっほ」にあそびにおいでよ～

(子育て支援センターは市民センター内に移転しました)

平成20年度当初予算
一般会計：193億6,800万円
(対前年度同期△4億1,500万円、△2.1%)
特別会計：155億5,940万円

3月補正額：△8,553万円
補正後の予算
一般会計：211億68万円
(対前年度同期△9億3,003万円、△4.2%)

平成20年伊万里市議会第1回定例会 会期日程

3月

開議時刻 午前10時

日	種別	内容
3月	本会議	開会 会議録署名議員の指名 会期の決定 市長提出議案等50件 ……一括上程 市長提出議案等の提案理由説明
5(水)	本会議	議案等に対する質疑
6(木)	本会議	議案等に対する質疑 議案の常任委員会付託
7(金)	休会	特別委員会(交通網・港湾・企業誘致対策)
10(月)	休会	特別委員会(地域医療整備対策)
11(火)	本会議	一般市政に対する質問
12(水)	本会議	一般市政に対する質問
13(木)	本会議	一般市政に対する質問
14(金)	休会	全休(中学校卒業式)
17(月)	休会	常任委員会
18(火)	休会	常任委員会
19(水)	休会	全休(小学校卒業式)
21(金)	休会	常任委員会
24(月)	休会	正副委員長会
26(水)	本会議	常任委員会報告 常任委員会報告に対する質疑 特別委員会報告 特別委員会報告に対する質疑 議案の付議順序により討論、採決 閉会

議会ホットコーナー

市民交流プラザの設置

市民の自主的な活動を支援し、市民と行政の協働によるまちづくりを推進するとともに、障害者の自立した社会生活を支援するために伊万里市民交流プラザが設置されました。



施設名	利用料金
会議室	・小会議室(18人) 200円/H ・中会議室(42人) 300円/H ・大会議室(80人) 500円/H
団体用貸しブース	1区画当り 2,500円/月
貸しロッカー	・中(16ケース) 300円/月 ・大(6ケース) 500円/月
簡易印刷機械 複写機 冷暖房機	実費徴収
その他 (情報掲示コーナー、開放PC)	無料

- 開館日 下記に定める日を除いて開館する。
①年末年始(12月29日～1月3日)
②祝日 ③毎週土曜日 ④特別の事情により別に定める日
 - 開館時間 午前9時から午後5時まで
(但し、火・金曜日は午後10時まで)
- ※障害者生活支援センターは、上記①②及び毎週土・日曜日は休館とし、午前9時から午後5時まで開館

定例会会期日程など

議案質疑

留守家庭児童クラブ

質問 今回牧島小学校への設置が提案されているが、山代西小への設置予定は。

答弁 教育部長

利用希望のアンケートで、牧島小が21名、山代西小学校が10名であり、場所の手当てがなかった牧島小に開設することとした。山代西小は21年度に予定している。

有明佐賀空港 振興協議会負担金

質問 協議会の構成と負担金額、主な事業内容は。

答弁 産業部長

佐賀県内全自治体と福岡県、企業などから構成されており、負担金は県が5、469万9千円、佐賀市70万円、佐賀市以外の9市が一律7万円などで、総額5、757万9千円である。事業は利用促進のためマイレージ加算や定額レンタカーキャンペーン、乗合タクシー運行事業、旅行商品タイアップ企画などである。

総務委員会

★所管 総務部、政策経営部、市民部(戸籍・住民登録等)、会計課、消防本部、選挙管理委員会、監査委員、他の委員会に所属しない事項

委員会に付託された条例議案5件、協議事項1件、19年度補正予算議案1件、20年度一般会計予算議案1件について慎重審査の結果、原案のとおり可決するべきものとし決定致しました。

市民交流プラザ条例については、旧電算センター跡地に自主的な市民活動を支援する交流プラザを設置する目的のため。

ふるさと応援寄附条例については、全国から寄附を通じた多様な人々の参加によるふるさとづくりを推進し応援基金を設置するため。

市長、副市長及び水道事業管理者並びに教育長の給料月額の特例に関する条例の一部を改正する条例については、市長等の給料を減額する期間を延長するため。

市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正する条例については、特殊勤務手当の支給を受ける者の範囲を変更するため。

市消防署設置条例の一部を改正する条例については、消防署福島分署を廃止することに伴い、管轄区域を縮小するために必要が生じ、それぞれに審査を行ったところである。

市民交流プラザ条例については、市民活動支援と障害者生活支援という2つの目的を持ち、50の町づくり団体(NPO法人11団体)の利用が見込まれているが、ブース利用が特例化されないよう、全ての団体が公平に利用出来るよう配慮すべきとの意見や、多数の団体となると管理主体が薄れてくるので管理責任者を明確にすべきとの意見も出された。



市民活動支援センター 4/25落成予定



21世紀夢づくり事業 梅ジャム加工風景

ふるさと応援寄附条例については、事業目的の種類が(1)歴史・文化を活かしたふるさとづくり(2)市民によるまちおこし(3)自然環境の保全と3項目に限られている点で、寄附者の意志がより反映される為にはもっと受け皿の幅を持たせるべきとの意見もあったが、まちづくりをより具現化する為の限定された基金との説明を受け理解を示したところである。又要旨のPR方法についても苦慮するところであるが、対象者への働きかけを周知徹底するよう要望した。尚パブリックコメントにかけるか否かの発言もあったが、この条例自体が全ての市民に直接関わる事ではないとの理由で、その必要性は見出せなかった。

消防署設置条例の一部改正については、隣接する福島町の地理的特殊性によって県境を越えて、伊万里市での管轄を維持してきたところであるが、松浦市との合併で本来の姿に戻ったと理解する。福島分署で伊万里市北部地区の消防業務を一部担っていたので、今後の不足を懸念されるが、消防署の詳細な説明を聞き、その不安は払拭された。

予算関係については、新規事業として情報発信戦略アドバイザー事業39万5千円が計上され、市内外へ情報を発信するために伊万里市の発信力の強化を図る目的と説明がなされたが、抽象的でどのようなマニュアルがあるのか具体性に欠け、今後の事業進捗に注目するところである。

◎笠原 義久 ○樋渡 雅純
前田 教一 多久島 繁 松永 孝三
船津 賢次 前田 久年 下平 美代

文教厚生委員会

★所管 市民部（保健・福祉・環境・人権同和）、
教育委員会、市民病院

付託された条例議案や新年度予算等24件について審査の結果、原案どおり可決、承認すべきものと決定いたしました。

条例関係では、後期高齢者医療制度に係る保険料の納期等の提案がなされましたが、本年4月より始まる本制度について、現時点においてその実施内容が十分に理解されていない面もあると思われるので、今後とも継続して、より分かり易い説明周知を重ねるよう、特に要望いたしました。

小学校毎に順次整備している留守家庭児童クラブは、20年度は牧島小学校へ開設しますが、余裕教室活用であるため、指導員と学校との意思疎通を強く要望する意見がありました。

また、子育て支援としてこれまでの医療費助成（乳幼児医療費助成、子ども医療費助成：3歳から小学校就学前児童の入院費用の1/2助成）に加えて、20年度から子ども医療費助成に歯科医療費の一部負担金の全額補助を加えます。歯科医療費助成に関して、そこまでの配慮が必要なのかとの疑問や、本来ならば家庭における子育てのなかでみるべきとの意見もありました。

社会教育法の改正により、市立公民館の運営に関して公民館運営審議会の必置義務がなくなったため、その機能は元気なまちづくり協議会など住民意思の反映ができる地域組織へ委ねることもできることになりました。

予算関係のうち、補正関係ではそれぞれの事業における事業費の確定や対象者等の増減による精算等となっています。

新年度予算については新規事業を中心に主な事業について審議しました。

民生費関係では、心身障害児通園事業ひまわり園の移転による効果の問いに対しては、個別指導室での指導や言語聴覚士による訓練の充実の他、旧施設では出来なかった外遊びやプールでの活動などが可能になったこと等の報告を受けました。ついで、19年度から始まった敬老祝つるかめ商品券については、使用に当たっての交通手段に困難な場合もある

こと、また現金支給の方が喜ばれるなどの意見がありましたが、今後、登録店を増やすなど、より利用し易いように検討したいとの回答を受けました。

同和活動費補助金は財政難の折に減額の考えはないのかとの問いに、本年度は2団体合計で90万円の減額を実施したとのことでした。子ども医療費助成事業では、本当に子育て支援につながるのかとの意見がありましたが、県内他自治体とも比較しながら最低限の対策を講じたとの説明を受けました。

衛生費関係では、一般廃棄物処理基本計画と広域圏ごみ処理計画との整合性についての質問に、回答では26年度までの関連で整合させているとの考えが示されました。

教育費では、博物館・美術館建設の構想についての質問に、19～20年度の基本計画策定委員会で検討中との説明を受けました。

また放課後子ども教室の実際運用面についての質問に、実施曜日、時間、内容はまちまちでそれぞれの公民館の裁量に委ねるものとの回答を受けました。3ヵ月児を対象としたブックスタート事業では、絵本1冊のプレゼントを2冊に戻せないかとの問いには、子育て支援基金の活用も検討したが難しく、図書館のフォローアップ事業の利用を勧めていきたいとのことでした。

以上、報告いたします。



「ぼっぼ」 開所式

◎岩橋 紀行 ○山崎 秀明
占野 秀男 高木 久彦 島田 布弘
田中 啓三 福田 喜一 盛 泰子

産業建設委員会

★所管 産業部、農業委員会、建設部、水道部

当委員会に付託された条例議案2件、補正予算議案1件、特別会計補正議案3件と新年度予算議案1件、特別会計予算議案7件に専決処分1件に付いて、慎重審議の結果、次の要望を付し、原案のとおり可決及び承認すべきものと決定いたしました。

小規模土地改良事業について、他事業の活用を図られているが地域の要望も多い。このため、今後の申請状況に応じた予算措置と事業費上限の回復を要望する。

条例議案については、農業委員会に関する条例の一部を改正する条例制定は、農業委員の削減について、選挙による委員定数を2名削減・議会推薦を2名削減となっているが、削減については、農業委員の役割や農地面積・農業に関する諸課題等を参考にしたとの説明をうけた。

有害鳥獣対策事業については、新年度は1千頭分を予算措置しているとの説明をうけた。

小規模土地改良事業については、92箇所の実績で、新年度においては700万円の予算であるが、限度額も当初100万円が80万円になり、現在70万円となっているが、厳しい財政の中ではあるが今後、補正で対応していただきたいと要望をつけた。

どっちゃん祭りの花火大会は国見台に会場を移すとの説明を受けた。また秋祭りについては、奉賛会が伊万里神社へ移され、今後の協議を見守りたいとの説明を受けた。

工業用水事業について、第4工水事業は現在までは多少の工事の遅れがあるがほぼ計画どおりに進んでおり、新年度は塩分溶出対策工事や各種工事を行い、H21年7月供用開始に向け進捗しているとの説明を受けた。

第4工業用水道建設事業
久原南ふ頭の海底に埋設される管

伊万里焼ロードギャラリー事業については、H19年度～H21年度までに20基のモニュメント等を設置するとの説明を受けた。

道路整備事業については、道路維持、市道整備事業、都市再生道路整備事業、地方道路交付金事業、道整備交付金事業、辺地対策事業、交通安全施設整備事業等の予算が計上され16路線が整備されている。

都市計画道路 大坪木須線
(つつじが丘北公園付近)

他、都市計画道路整備事業（大坪・木須線）・（陣内・白野線）などの多くの道路整備が行われている。河川事業、港湾事業、都市公園整備事業等も計上されている。

住宅事業については、住宅促進事業の空き家バンク制度は、市内への定住促進を図るための支援、空き家情報調査や相談業務等の経費を計上。

地域住宅交付金事業は、老朽化が著しい市営住宅については外壁等改修工事・集会場改修工事・給水管改善工事・火災報知機設置工事・駐車場整備工事等の設計管理委託料等で国の補助率45%の補助を受け改修工事を行う。

特別会計については、立花台地開発事業・公共下水道事業・農業集落排水事業・市営駐車場等については公債費比率の減もあるが健全経営に努めていただきたい。

以上報告いたします。

◎前田儀三郎 ○渡邊 英洋
松尾 雅宏 松尾 博幸 草野 譲
堀 良夫 内山 泰宏 浜野 義則

交通網、港湾、企業誘致対策調査特別委員会

1 西九州自動車道建設について

西九州道路は、本市において高速定時性と経済的波及効果を期待する道路として、伊万里市民が切に希望している道路である。現在唐津・伊万里道路の内、南波多町高瀬地区2ヶ所において橋台1基が来年3月に完成予定であり、いよいよ姿が見え始めている。

伊万里、松浦道路でも長崎県側において早期の工事着工が見込まれており、今後も両県一体となり、国、県に強く働きかけるものである。

2 港湾整備について

伊万里港の整備は、引き続きマイナス13mのコンテナ岸壁整備とマイナス10mの航路浚渫が行われている。国際物流港を目指す中で、港湾機能の強化は必要不可欠であることから、久原、七ツ島の整備はもとより、長期的には浦ノ崎廃棄物処理用地について、荷役機能を含む施設への転化が望まれる。

尚、コンテナ取扱量は博多、北九州港に続いてはいるが、更なる増加を図らねばならない。

3 企業誘致について

19年度は明太子製造の(株)かねは及び(株)SUMCOのソーラー部門の進出が決定した。

(株)かねはは本年7月操業をめざして大坪町に工場を建設中であり、一方の(株)SUMCOは伊万里団地の第5工場に隣接して、太陽電池用ウェハーの材料となる多結晶シリコンインゴットの製造工場を建設する計画である。

企業の活発な設備投資により工業団地も残り少なくなり、新たな工業団地形成も視野に入れる必要がある。

◎福田 喜一 ○松尾 雅宏 占野 秀男
山崎 秀明 樋渡 雅純 高木 久彦
島田 布弘

地域医療整備対策調査特別委員会

1. 新病院建設における協議等の経過について

新病院建設費負担割合が両市町にて決定し新たな医療福祉組合によって用地交渉、病院建設等の事務処理がなされていく。病院統合の諸問題は両市町の首長、議長など10名で構成された新協議会にて協議される。今回の協議において用地取得、道路、下水工事の費用分担、病院財産の引継ぎ、医師・看護師等職員の引継ぎなどの覚書も確認された。

2. 新病院建設に向けて

コンサルタント素案が基本計画等策定委員会において提示された。それによると西部医療圏中核となる新病院の病床規模229床や、15診療科目、医師・看護師等の人員配置計画、更には事業費の概算や収支見込等がある。又、循環器系と脳卒中の診断・治療の機能強化を図ることにより患者の圏外流出抑制、紹介・

逆紹介を積極的に推進する等の内容である。今後この素案をベースに検討されるが、医師確保という最大の問題や地域に合った診療科目の設定、経営安定の見極めなど安心できる医療体制を確立していく為の問題は多い。公的病院経営が厳しい今日、経営形態については地方独立行政法人化も含めた考察など慎重にならざるを得ない。今後の協議、検討においては、将来に禍根を残さぬよう議論を尽くし、市民、医療現場の声を反映させるとともに、決定に至るまでの経緯を市民に十分に説明していただくよう要望した。当委員会としても協議等の状況を速やかに把握し検討したい。

◎堀 良夫 ○多久島 繁 渡邊 英洋
草野 譲 笠原 義久 前田儀三郎
下平 美代

議会運営委員会

第23号にも記載しておりましたが、これまで「議案」は総務課職員などにより議員宅へ届けられていました。県議会や県内市議会の状況等も調査の上、議会改革の一環として、今回の定例会から議会事務局での受け取り方式に変更しました。

現在の議運メンバーの任期はあと1年。5月には先進議会視察を予定し、更に研鑽を積んで、新たな改革を進めていきたいと考えています。

◎盛 泰子 ○前田 久年 松永 孝三
 松尾 博幸 船津 賢次 内山 泰宏
 岩橋 紀行 田中 啓三 浜野 義則



行政視察受け入れの状況（平成20年1月～3月）

月	来訪議会名	人数	視察項目	
1	岡山県津山市議会	4	NPO法人伊万里はちがめプラン	会
	福岡県大野城市議会	8	議会だより	委
	栃木県那須塩原市議会	11	議会運営、議会改革	委
	大分県由布市議会	8	企業誘致	委
	愛知県幸田町議会	10	道の駅「ふるさと村」	会
	熊本県富合町議会	12	水道事業	会
2	山梨県笛吹市議会	8	議会運営、議会改革	会
	山口県萩市議会	10	夢みさき公園整備事業	委
	福岡県直方市議会	11	議会運営、議会改革	委
	新潟県議会	14	伝統工芸を活かした地域活性化	委
	和歌山県議会 (半島振興議員連盟)	43	伊万里・黒澤映画祭、夢みさき公園整備事業	
	宮崎県西都市議会	7	定住サポートセンター	委
	大阪府能勢町議会	1	NPO法人伊万里はちがめプラン	会

※ 人数は、議員の他、随行者も含まれます。

※ 「委」は委員会、「会」は会派、「個」は個人での視察を意味します。

※ 多くの場合、伊万里市内に宿泊されています。伊万里市議会も出来るだけ視察先の自治体に宿泊するように努めています。

※ 3月は議会中であり、視察申し込みはありませんでした。

一 般 質 問 (質問順)

一 般 質 問 事 項

議員名	質 問 事 項	議員名	質 問 事 項
山崎 秀明 (一問一答)	1. ファミリーパークの今後の整備方針 2. 黒澤明記念館建設計画の進捗状況について 3. 県道黒川松島線バイパスの建設促進		3. 生活保護行政について (1) 相談窓口での対応、いわゆる「水際作戦」となっていないか 4. 就学援助制度について (1) 同制度の紹介・広報(お知らせ)について
前田 久年 (一問一答)	1. 福島町の常備消防事務委託解消に伴う北部地域の消防対応について (1) 松浦地区消防組合本部との消防相互応援協定の協議と北部地区における救急への対応について (2) 火災における消防団の出動と地域の自主防災組織づくりについて 2. 地域力発掘に対する支援策について (1) 多目的トイレの設置について	盛 泰子 (一問一答)	1. 原発10キロ圏問題について (1) これまでの議論をふりかえって (2) 伊万里市地域防災計画への県の関与 (3) 風評被害への対応 2. 住民基本台帳カードについて (1) e-Taxに関連しての状況 3. 「前田くしや」の保存・活用について
堀 良夫 (一問一答)	1. 新工業団地適地の調査等取り組み (1) 国の企業立地促進法による伊万里・武雄地区地域産業活性化推進協議会において進める工業団地整備計画状況 (2) 佐賀県が打ち出した工業団地開発共同整備方式の内容 2. 既存工業団地にかかわるインフラ整備 3. 小・中学校教育における課題について (1) 県が計画・実施した中高一貫教育校 (2) 本市の教育行政について (3) 小・中学校の児童・生徒の携帯電話	松永 孝三 (一問一答)	1. 農業集落排水事業の浄化施設の処理水の配布について 2. 「合特法」に基づく合理化事業計画
下平 美代 (一問一答)	1. 後期高齢者医療制度のもんだい点と説明責任について 2. 公民館管理運営事業における日直業務の見直しについて 3. 学校適応指導教室「せいら」について	渡邊 英洋 (一問一答)	1. 中心市街地活性化について (1) これまで取り組んだ事業とその成果 (2) 「伊万里」を感じるまちなみ修景整備計画の取り組みについて 2. 環境センターについて (1) 西部ブロックごみ処理広域化計画の進捗状況について (2) 現施設の状況について
樋渡 雅純 (一問一答)	1. 「災害時要援護者」への支援 (1) 情報の把握・取り扱い・活用 (2) 避難支援プランの策定 (3) 災害情報伝達訓練・体制の現状と課題 2. 健康づくりと予防の推進 (1) 新制度による特定健診について (2) 特定保健指導の体制と課題	松尾 雅宏 (一問一答)	1. 食の安全について (1) 伊万里市における食の安全確保の考え方 (2) 学校給食における食材の実態について 2. 伊万里市バイオマスタウン構想の進捗状況について 3. 平成20年度農地・水・環境保全向上対策の新規取り組み地区対応について 4. 品目横断的経営安定対策の見直し 5. 地域担い手経営基盤強化総合対策実験事業における市義務負担について 6. 鳥獣被害防止特別措置法成立による伊万里市の取り組みについて
浜野 義則 (一問一答)	1. (株)SUMCOの事業拡充に伴う諸課題への対応について (1) 第4工業用水建設について (2) 交通体系の整備について (3) 定住環境の整備について (4) 学力向上対策について (5) 技術力向上対策について	笠原 義久 (一問一答)	1. 市内バス路線(いまりんバスを含む)の運行状況と行政のかかわりについて 2. 緊急課題である市街地再生の基本方針 3. 佐賀県ごみ処理広域化計画における西部地区ごみ処理施設整備の市民への理解と今後の方向性について
船津 賢次 (一問一答)	1. 後期高齢者医療制度について (1) 同制度の問題点 (2) 説明会の開催を 2. チラシ(道路特定財源の暫定税率延長を求める内容-西九州自動車道建設促進期成会名)の作成と配布について (1) チラシの内容 (2) 公金が使われていること (3) 行政機構が使われていること	内山 泰宏 (一問一答)	1. 伊万里市におけるインターネット公売制度について (1) この制度が市民税の滞納額を減少させる救世主となるのか 2. 公的病院統合について (1) 伊万里市民が期待する統合病院(伊万里市民病院・有田共立病院)とはどのようなものか (2) 統合病院開院までの伊万里市民病院の運営について

ファミリーパークの今後の整備方針について

山崎 秀明

質問 開園後の利用状況はどうか。特徴的に示して欲しい。

又、今後の整備計画の年度毎のスケジュールはどうなっているのか。

答弁 建設部長

18年度41、683人、19年度約38、000人(2月末)で月平均3、500人位となっており、春秋の行楽シーズンの利用が多い。

今後の整備は、20年度市民記念樹の森敷地造成、及び主園路整備、21、23年度にかけて、米島台及び沿岸部の展望台や園路整備を計画している。

黒澤明記念館建設計画の進捗状況について

質問 ファミリーパークの

整備に整合した建設推進を図るべきではないか。

答弁 企画政策部長

財団は黒澤明生誕100年事業を2010年に計画中で、まずソフト事業の充実により財団の信頼度を高め、資金調達に結びつけたなどの考えである。

県道黒川松島線バイパスの建設促進について

質問 本路線の事業計画年度が20年度迄となっており、引き続きの事業実施となれば本年中の県都市計画審議会の審査が迫っているが、その対応はどうなっているのか。

答弁 建設部長

事業期間内に計画変更手続きを進める考えである。本ルートは並行路線ともなるが、西九州自動車道や臨港道路として環伊万里湾を連結する重要な道路、また、伊万里北部地域の発展に欠かせない機能を有した道路と認識している。

福島町の常備消防解消に伴う北部地域への消防対応について

前田 久年

質問 福島町の常備消防は平成20年3月31日をもって松浦地区消防組合消防本部に移管され伊万里消防本部の管轄から離れることとなるが、管轄外となる福島町からの本市北部地域への出動は、どうなるのか。

答弁 消防長

北分署管内の場合の補完体制について懸念される部分があるので、応援協定の中で出動要請を行いたい。

消防団の出動と地域の自主防災づくり

質問 火災等の緊急事態の対応について、消防団員の地元不在が心配されるがOBの応援の考えはないか。

答弁 市長

最近会社勤務の方が85%もいて火災、水害発生の場合、会社に出動要請をしや

すいように消防団協力事業制度を設け呼びかけている。OBの方の人材をそなえることは、これからの時代のなかで市民力、地域力がますます重要になってくるとき、大変重要なことだと思っている。課題を整理しながら検討をして後押しをしていく。

多目的トイレの設置について

質問 周辺部の活性化が市全体の発展につながるが他所からの来所者のための多目的トイレ等の環境施設整備は出来ないか。

答弁 産業部長

国の交付金事業の農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業があり、トイレの整備については二次的なもので、あくまでも地域の活性化を目指した直売所の整備の中で並行してトイレを整備させていこうというものであり、地元と十分に意見を交わしながら支援して参りたい。

新工業団地調査等取り組みについて

堀 良夫

質問 昨秋新聞報道された武雄市と共同での大型工業団地開発の状況は。

答弁 産業部長

企業立地促進法に基づき、県と両市は国が支援する対象地域として同意を得、市境エリアを県営工業団地の計画地として位置付け推進を図っていたが、県は市町との折半による共同整備方式を発表。県営と違い、両市における開発面積、事業主体の取り扱い、事業費負担割合等、推進課題も多い。事業手法も含めて実現の可能性について検討したい。

答弁 市長

松浦地域の立地選定は、松浦バイパス沿線をも含め、多様化する企業の立地動向に対応した工業適地の調査、研究に取組みたい。

一般質問

伊万里団地の臨
港道路四車線化
の取り組み

質問 既存工業団地の効率を図るため、七ツ島工業団地へのアクセスとして臨港道路七ツ島線の計画推進、伊万里団地の臨港道路四車線化の取り組みは。

答弁 建設部長、市長

七ツ島工業団地へのアクセス道路は一本しかなく、臨港道路七ツ島線は国道204号の交通渋滞緩和策等として喫緊の課題である。一方、伊万里団地では企業の拡張による大幅な交通量の増加が見込まれ、交通渋滞の解消や車両の大型化に対応するため臨港道路の4車線化は重要であり、両団地を一本化する交通体系の整備については引き続き県に要望していく。

(質問1問省略)

後期高齢者
医療制度

下平 美代

質問 4月1日実施予定の後期高齢者医療制度は、年齢によって区分される保険。歴史上はじめて。世界にも例がない。保険料は年金からの天引きである。①これらの説明は十分に行われたのか。又75歳以上が対象者という配慮があったのか。市民には疑問と不安が多い。②制度の問題点は。③担当部の人的配慮

答弁 市民部長 市長

①新聞、テレビ、市広報等で行ったが今後も更に周知徹底に努力する。分かりづらい言葉、文字の大きさにも留意する。
②年金18万以上の人は年金より天引き。以下の人は納付書で納める。コンビニでの納付はこれから検討する。佐賀の保険料は均等割、所得割ともに全国6位と高いので、予防に留意し、は

り灸は今後も一般財源で続ける。

診療報酬は他の健康保険とは別件で定額制となる(医師会とも協議をした。い。)

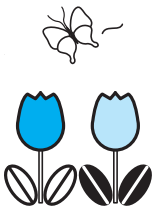
③複雑な新制度の導入で、人的配慮の必要も考えられる。4月人事で対応する。

学校適応教室
「せいら」

質問 児童生徒の心の居場所と学ぶ機会を提供し学校復帰をめざす「せいら」の実践はすばらしい。2時以降も学びたいという生徒の声がある。生徒の声にこたえられないか。県内では3時までの教室も多い。

答弁 教育部長

長時間の拘束が負担になる子もいるが、時間延長を希望する子には、個別的に考えていきたい。

災害時要援
護者支援

樋渡 雅純

質問 要援護者の名簿作成については、まだ全国的に進んでいる状況にないが本市の場合、地区防災会を中心に把握に努力されている。その状況について。

答弁 総務部長

民生委員を中心に個別訪問して頂き、「緊急用調査カード」に情報を記入してもらっている。防災・援助活動時のみにそのカードを使わせてもらう同意方式をとっている。現在1、093人の登録である。

質問 一昨年、「避難支援ガイドライン」が示され、

市町村にも要請があつている。把握状況をみながら支援計画・プランの取り組みを。

答弁 総務部長

今後、要援護者全体の避難計画と、一人一人に対する個別計画を作る必要がある。H20年度に全体計画を作っていきたい。

特定健診・特定
保健について

質問 4月より、「生活習慣病予防の徹底」を図ることから、健診又保健指導が義務になる、その実施計画は。

答弁 市民部長

H20年度は国保対象者を約11、000人、受診者は33%の3、890人を予定。5月～7月にかけて集団健診と医療機関での個別健診も延長して実施する。

質問 最終実施率65%が未実施の場合支援金10%が加算になる。影響額は。

答弁 市民部長

達成の時マイナス7000万・未達成プラス7000万で1億4000万の差が生じ、国保にも影響が出てくる。

質問 健診後の個別支援がより重要、体制の充実を。

答弁 市長

保健士等の人材確保は今後の課題。今年は新規一人配置。各課と連携をとり増員も視野に入れた体制作りを目指す。

一般質問

（株）SUMCOの工場拡充に伴う諸課題への対応

浜野 義則

質問 建設中の第4工水工事において市内業者への発注が少ないように思うが、H19年度の発注状況は。また、工事における責任体制と最終的な事業費予測は。

答弁 水道部長

H19年度における発注件数は34件で市内業者の受注は14件（40%）、受注金額で18億4、298万円（20%）になっている。工事施行はできるだけ地元業者にとの検討をしたが、時間的な制約や技術的課題をクリアするためこのような結果になった。現在まで全体の8割程度が発注済みで、落札率は平均82・4%。事業費は153億円を見込んでいる。工事の責任体制は工区や施設毎の完工検査を実施するため問題ないと考える

が、今後も受注業者に対し十分な指導と監督を行っていく。

交通体系の整備

質問 今後伊万里団地内や周辺道路の交通量増加に伴う混雑が予想されるが対応は。

答弁 建設部長

今後伊万里団地内に1、000名からの雇用増や生産活動に伴う貨物車両の増加が見込まれるため、県に4車線化の要望を行っているが、久原〜瀬戸線（国事業）15億円、久原線（国事業）で約11億円の残事業費が見込まれることから、現在七ツ島において実施されている岸壁工事（H20年代半ば完了予定）の後に取り組みたいとのことであった。今後も交通量等の実態を見ながら早期実施の要望活動を行っていききたい。

後期高齢者医療制度について

船津 賢次

質問 ①75歳で線引きするのはなぜか。対象者は何人か。②これまで被扶養者となっていた方も新たに保険料が徴収される。その対象者は何人か。保険料は二年ごとに改定されるようになっており、将来にわたって負担増を押し付ける仕組みになっている。③資格証明書の発行は病院にかかれないうお年寄りをつくることになる。普通徴収の対象者は何人か。

答弁 市民部長

①国保からの移動が6、100人程度②1、750人程度③500人程度。

道路特定財源の延長を求める内容のチラシ配布について

質問 このチラシは広報二月号とともに配られ、市民から「一方的」との声が寄せられている。公費でこう

したチラシを作成し行政機構を使って配布された事は納得できない。

答弁 市長

チラシは注意、検討してつくった。久留米市、佐伯市、八代市等でも、広報やチラシとして配布されている。

生活保護行政について

質問 北九州市での相次ぐ餓死事件を教訓に窓口での対応が変化してきている。伊万里市でも申請の意思が確認されれば申請書を交付すべきだ。

答弁 市民部長

申請の意思が確認されれば申請書を交付する。

就学援助制度について

質問 制度の周知徹底を。

答弁 教育部長

入学時や学級懇談会などで紹介している。申請書については市のHPからもダウンロードできるようにする。

「前田くしや」の保存活用

盛 泰子

質問 多くの市民の参加を得て『前田家住宅利活用計画』が策定された。その課題の一つに「庭園への導水」があるが、どんな手法が考えられるか。

答弁 建設部長、市長

往時は伊万里川から取水していたが、現在の水路の状況等から困難性が高い。ご当主の理解を前提としての話だが、井戸を掘って水を回遊させることも選択肢の一つであり、皆さんと協議していききたい。

原発10km問題

質問 これまでに何度も議論してきたが、県の姿勢にも変化がある。玄海原発から直近で12km、道路も唐津方面か伊万里方面しかなく、県に伊万里市への対策を再度要請すべき。

一般質問

答弁 ①総務部長、②市長

①伊万里市への対策について県の姿勢に変化はない。②万一の場合の風評被害対策は、伊万里市だけの問題ではないので、県内市長会に提案し、「佐賀県地域防災計画」の変更を申し入れたい。

住民基本台帳カード

質問 総務省は「住民基本台帳を無料交付した自治体へ特別交付税を3年間で乗せする」としている。今年度政務調査費で片山善博教授に学んだが、このようなことは地方自治の本旨に反すると痛感する。市長はどう考えるか。

答弁 ①市民部長②市長

①今のところ住民基本台帳を自動交付機等での多目的利用とする計画はないため、無料交付は考えていない。②自治体の主体性を全く無視した内容であり、特別交付税が入る確証もなく憤慨している。

農村集落排水事業の浄化施設の処理水の配布について

松永 孝三

質問 平成19年度で処理水の配布を打ち切るとのことであるが。

答弁 建設部長

浄化槽法の問題がありE M菌の科学的な根拠がないので打ち切る。

質問 E M菌を用いた浄化施設の運転には問題があるのか。

答弁 建設部長

施設を管理する立場からすると浄化槽法が入ってきるとE M菌を処理水に添加することは本来の業務からはずれる。市費でやるのは問題である。

質問 自然循環型農業の実現に向けての取組みは。

答弁 建設部長

E M菌についてのデータ処理ができていない。原点にもどり循環型農業は次

なるステップである。

質問 E M菌の使用により臭い対策の解消となっていたが、今後E M菌の使用をしないとすれば臭い等の対策はどのようにするか。

答弁 建設部長

物証やデータも無く施設内の臭い対策としてE M菌を用いることはある。環境に配慮した対策は取り組んでいく。

「合特法」に基づく合理化事業計画について

質問 汚水集合処理区域における集合住宅などの接続件数はどのようになっているか。

答弁 建設部長

集合住宅などは入居者戸数になっている。

質問 集合住宅などは、浄化槽は入居者が共用しており影響額の算定表のように一戸建ての影響額の数字を入居者数にかけるようにならないと思うが。

答弁は明確にされなかつた。

中心市街地活性化対策について

渡邊 英洋

質問 「伊万里」を感じるまちなみ風景整備計画の目的と具体的な方策をどう展開されるのか、又、本町商店街では老朽化によるアーケード撤去が予定されているが、撤去後本計画にどうリンクされるのか。

答弁 建設部長

伊万里のもつ焼き物をキーワードに、市の中心部（中心市街地）及び幹線道路に「伊万里」を感じる風景（デザイン）の方向性を定めることを目的として、具体的な方策の一例として、幹線道路に焼き物のメニューメントを設置して「伊万里」を感じつつ中心部へ導く動線を整理する。又、本町アーケード撤去後は未だ残っている白壁土蔵風の建物を生かし本計画に沿ったまちなみ風景に取り組みたい。

環境センターについて

質問 県ごみ処理広域化計画に基づき、新施設の建設候補地である松浦町では地元説明等が行われているが、本計画では平成27年4月が新施設開業となつている。そこで、新施設での開業後の現施設への対応はどうされるのか。特に最終処分場は満杯の状態が予想される。

又、2年後の平成22年3月末が地元との借地契約期限となつているがどう対応されるのか。

答弁 市長、市民部長

最終処分場をはじめ現施設の対応については、新施設計画の進捗状況に併せ、地元の皆様と十分協議を重ねながら取り組んでいきたい。借地期限については、地元の皆様のご理解とご協力を賜り、是非とも契約の更新をお願いしたい。

食の安全について

松尾 雅宏

質問 本年2月の中毒事件以降、中国産加工食品が大きな社会問題となつていますが、食のまちづくり宣言をなされた市長の見解を聞きたい。

又、給食センター食材の実態について伺いたい。

答弁 市長

国内生産の自給率が低下している今、中国食品は不可欠ではあるが、食に対する不安は拭いきれない。宣言の中にも地域農業振興を掲げており、地産地消を柱として、市民に安全な食を提供することができ、重要課題として考えていく。

答弁 教育部長

先の問題を受け、餃子を献立してから回避したが、その餃子も国産品ではあったものの、抵抗感の面から変更した。給食センターの食

材は国産を使用しており、国、県機関が安全を確認したものを、そして学校給食会で定められたものを使用している。又、青果野菜についても伊万里産を柱として使用している。

伊万里市バイオマス構想について

質問 18年に策定されたこの構想の進捗について伺う。

答弁 教育部長

本構想計画に基づき、出来る事から実践をしている。給食センターの生ゴミに

ついては、経費の面から実施できずにいるが、協議は行っている。又、バイオデリーゼル車は公用車として使用している。

農地水環境対策について

質問 当初予算では3地区とあるが何故か。

答弁 産業部長

昨年の積み残しを計画予定していたが、他に要望地区が多く聞かれるので、県にも強く要望していく。

バス路線の運行状況

笠原 義久

質問 いまりんバスの路線延長と利用側の時刻変更は。

答弁 産業部長

バス一台での稼働では限度があり、現在の方法が最良と考えている。

質問 生命線である佐賀市への直行便の考えは。

答弁 産業部長

多くの声を聞く為に伊万里市民と考える地域交通会議を設けているので意見を参考に新年度に方向性を示したい。

市街地再生について

質問 緊急課題の市街地再生をどの様に考えているか。

答弁 建設部長

市街地活性化の為街中修景に色々と取組んでいるが実現効果に至っていない。

質問 町づくり三法の改正主旨からして市街地の縮小化は

答弁 市長

現在の市街地の状況は発展途上にあり該当しない。市街地のとらえ方が違うので、コンパクトシティ構想は時期尚早と考える。

西部地区ゴミ処理施設整備計画について

質問 伊万里市で受託すると返答した理由と経過は。

答弁 市民部長

他市町より8ha以上の候補地がないとの理由で伊万里市への要請があつている中で松浦町より建設地受入れの申し入れがあつた。

質問 3市5町のゴミを引き受けるとなると、松浦町民だけでなく結論は全市民的な重大問題だと思ふが。

答弁 市長

新たな施設ではなく経費の節減にもなる。全市民の合意を取り付ける事は難しい。

統合病院伊万里市民病院・有田共立病院開院までの伊万里市民病院の運営について

内山 泰宏

質問 統合病院の開院までは伊万里市民病院を運営しなければならぬ。そこで、一番心配されるのが医師確保である。県内においても自治体病院からの医師が辞職し、救急の一時休止、診療科目の休止となつている。今後、伊万里市民病院の医師の確保についてどのような対策を考えているのか。

答弁 市長

確実に存続ができるよう医局に派遣をお願いしていきたい。また、不足の原因は新臨床研修制度であり自治体病院を持つ自治体と連携して制度を元に戻すように国に訴えていきたい。



一般質問

インターネット公売 制度について

質問 市税等について、現在はお金で収納しなければならぬ。

財産があってもお金がない人を「差し押さえ」という形でなく財産で収納して、それを公売するシステムをつくる必要があるか。

答弁 総務部副部長

東京都が地方税の納付手段として、独自の物納システムを導入することが発表されている。その中身は、納税者が納税協力団体(納税貯蓄組合連合会)に物納したい物品を出品依頼し、納税協力団体がインターネット公売で売却して、その代金で納税する仕組みである。納税者にとって物納に近い納付制度であり、このような先進事例を参考に今後、検討していきたいと考えている。

次の人事案件を同意しました

- ・公平委員会委員 大原 巖
- ・固定資産評価審査委員会委員 重松 洋、小島 由紀子、森 日出子
兼 武 修 治、川 原 正 紀



第15回スタミナ焼肉オリエンテーリング



菜の花まつり(牧島地区)

編集後記

議会は執行部に対すチェック機能であると言われる。

執行部側も知識と正確性と責任を持って判断し、政策を提案し議決を受けるが、その際、議員も高い判断能力が問われる。

議決は共に責を負うべきであり、内容の仔細までは熟知していなかったでは済まされないような気がしてきた。

もっと向上したいという気持ちを持つべきではと……この頃考えさせられることがある。(山)

◎樋渡雅純 ○山崎秀明

松尾雅宏 多久島繁

前田久年 渡邊英洋

顧問 占野秀男、盛泰子

発行 伊万里市議会

伊万里市立花町一三五五―

☎0955-23-2111

☎0955-22-1277

E-mail: gikai@city.imari.jp

編集 市議会だより編集委員会

印刷 山口印刷株式会社

